

年頭のご挨拶

防衛大臣 小野寺 五典



新年あけましておめでとうございませす。偕行社会員の皆様、ご家族の皆様にご謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中に防衛省・自衛隊に賜りました一方ならぬご支援・ご協力に対し、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

現在、我が国を取り巻く安全保障環境は、戦後、最も厳しいと言っても過言ではありません。

北朝鮮は、一昨年来、3回の核実験のほか、約40発もの弾道ミサイルの発射を強行しました。これらは、国際社会に対する正面からの挑発であるとともに、我が国を含む地域の安全に対する、これまでにない重大かつ差し迫った脅威となっています。

また、中国は継続的に高い水準で国防費を増加させ、軍事力を広範かつ急速に強化しつつ、周辺海空域等における活動を急速に拡大・活発化させています。

このような状況を踏まえ、以下の施策を積極的に推進してまいります。

第1に、統合機動防衛力の構築についてです。

厳しい安全保障環境において、安全保障政策の根幹となるのは自らの努力であるとの認識の下、我が国自身の防衛力を強化し、自らが果たし得る役割の拡大を図る必要があります。

このような考え方の下、防衛省・自衛隊として、防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画に基づき、統合機動防衛力の構築に努めてまいります。

特に、北朝鮮が弾道ミサイル能力の増強を進める中、全国を常時・持続的に防護する能力を抜本的に強化するため、新規BMDアセットの整備に向けて早急に取組を進めてまいります。

さらに、総理からの「防衛大綱の見直しや次期中期防衛力整備計画の検討

を行う」旨の指示の下、現在の安全保障上の課題等を的確に把握し、政府部内でよく議論しながら、不断の検討を進めてまいります。

第2に、日米同盟の強化についてです。

私は、大臣就任以来、日米「2+2」や、マティス国防長官等との会談を重ね、日米間の緊密な連携を図ってまいりましたが、今後とも、日米ガイドラインの実効性を確保し、日米同盟の抑止力・対処力の一層の強化に努めてまいります。その際、特に、北朝鮮の脅威を抑止するため、米国と協力し、防衛態勢と能力の向上を図るために取るべき具体的な行動を進めます。

同時に、沖繩をはじめとする地元の基地負担軽減のための取組も重要です。普天間飛行場の一日も早い移設・返還、米海兵隊のグアム等への移転などに全力で取り組んでまいります。

また、米軍の安定的な駐留のためには、地元の理解を得ることが必要不可欠です。米側には、引き続き安全面に最大限の配慮をするともに、地元住民への影響を最小限に留めるよう強く求めてまいります。

第3に、安全保障協力の推進についてです。

豪州、インド、ASEAN諸国、欧州諸国などの基本的価値や安全保障上

の利益を共有する国々との防衛協力・交流を引き続き推進してまいります。

また、昨年、国際平和協力法成立から25周年を迎えましたが、これまで得られた成果を活かし、積極的平和主義の旗の下、国際社会の平和と安定のための取組を推進してまいります。

第4に、平和安全法制についてです。

一昨年3月に施行された平和安全法制については、米軍等の部隊の武器等防護について、米軍を対象とした運用の開始など、大きな進展がありました。今後とも、各種の事態に切れ目なく対応できるよう、平和安全法制に基づく活動の着実な実施に努めてまいります。

以上申し述べましたように、防衛省・自衛隊が直面する課題は山積しております。

私は、防衛大臣として、国民の皆様の高い期待にしっかりと応え、我が国の領土・領海・領空を断固として守り抜き、国際社会の平和と安定になお一層貢献してまいります。

偕行社の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご協力を賜れば幸いです。

最後に、偕行社の益々の隆盛と、会員並びにご家族の皆様の益々のご健勝と本年一年のご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。